

■学校経営のポイント

チーム学校——今できることから

小島 宏

次年度経営方針の構想をそろそろ練る時期に当たり、中教審作業部会答申素案(H27.11.16)を基にチーム学校について、現場目線で考えてみたい。

チーム学校の求められる背景

「社会、学校を取り巻く状況の変化→複雑化・多様化する子供の状況への対応、新しい時代に求められる資質・能力を育むための教育課程の改善」「日本の教職員の現状→教員の専門性向上とともに多様な専門能力スタッフの配置、教職員構造を転換、教育力・組織力の向上、一人一人の子供の状況に応じた教育の実現」を背景として、チーム学校が求められている。

「チーム学校」像

そして、「校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」をチーム学校像として描いている。

チーム学校を実現する3つの方向性

次の3つの方向性(視点と方策)から検討し、学校マネジメントモデルの転換を目指している。

視点1: 専門性に基づくチーム体制の構築(教員、事務職員、専門能力スタッフ等が役割を連携・分担し、それぞれの専門性を発揮できる体制を構築し、教員のみが子供の指導に関わる学校文化を転換する)

視点2: 学校のマネジメント機能の強化(校長がリーダーシップを発揮できる体制の整備をし、多様な専門能力スタッフをチームとしてまとめ、学校マネジメントを確立し、学校の組織力・教育力を向上させる)

視点3: 教職員一人一人が力を発揮できる環境の整備(教職員一人一人が力を発揮し、さらに力を伸ばしていく人材育成や業務改善の取り組みを推進する)

今、校長のなすべきことは？

目の前の子供の教育の充実が喫緊の課題で、条件整備が整わないからと足踏みをしてはられない。そこで、校長がリーダーシップを発揮し、視点1～3を踏まえつつ現状の中で、チーム学校としての学校運営とカリキュラム・マネジメント、教育活動の充実に、「今できること」から取り組んでいく必要がある。

多様なスタッフを生かす組織体制

学校の校務分掌の組織表を見直してほしい。教員・支援員、事務職員・校務主事、SSWやSC、クラブ・部活動支援員、地域協力者(外部人材、ゲストティーチャー)など全てのスタッフの役割・分担を明確にし、組織的・機能的に位置付ける。

また、地域との連携体制についても、現段階の条件下においてできる限りの整備をする必要がある。

学校運営と教育活動のビジョン

校長は教職員や専門能力スタッフ等に対して、学校運営と教育活動のビジョンを示し、「目的と目標: 何を実現するために」「役割と責任: 何を担えばよいか」を周知する必要がある。その上で、責任をもって実行し、必要な協働や調整を指導・指示する。

教員の教育活動への専念

授業をする教員、授業以外で子供と関わる養護教諭や教育相談員、SSWやSC、事務職員や校務主事など子供の指導を支える業務などの連携が重要である。このことによって、教員が子供と向き合う時間を物理的にも精神的にも確保できるのである。

業務の改善と人材育成

多様な専門職の業務の重複を調整するとともに、ICTを活用して効率化を推進する。また、校内研修等で21世紀を生き抜くために必要な資質能力を育む教育課程や授業の改善を可能にする人材育成と業務改善を積極的に進める必要がある。

(こじま・ひろし=公益財団法人豊島修練会理事長)

● 2016年版・学校経営のための最強ビジネスツール！(12/18刊)

2016 スクール・マネジメント・ノート

【監修】小島宏 【企画・製作】教育開発研究所 A5判・296頁/定価(本体2,200円)+税

■ 研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

